

## **第4章**

# **育児休業制度の利用状況等**



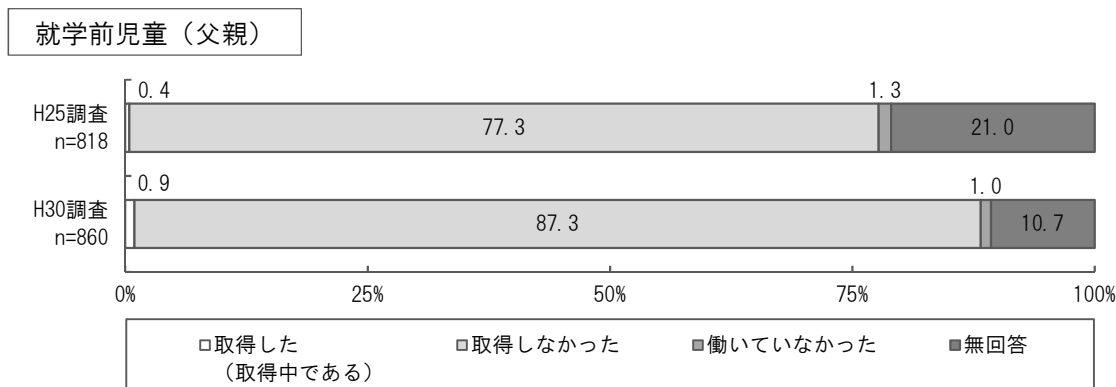
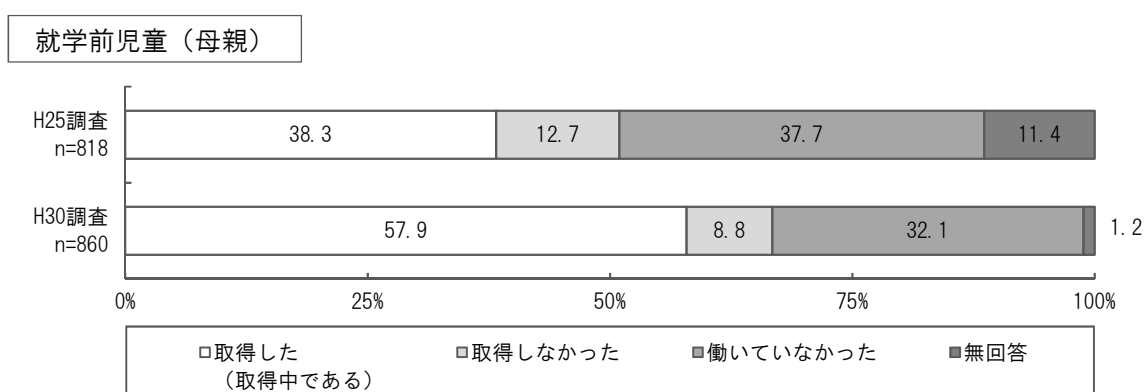
## 第4章 育児休業制度の利用状況等

### 1 育児と仕事の両立支援制度について

#### (1) 育児休業制度の取得状況

○育児休業制度の取得状況をみると、「取得した（取得中である）」母親は57.9%、父親は0.9%となっています。前回調査と比較すると、母親は19.6<sup>ポイント</sup>、父親は0.5<sup>ポイント</sup>高くなっています。

問27 育児休業制度の取得状況（経年比較）



#### 【参考資料】

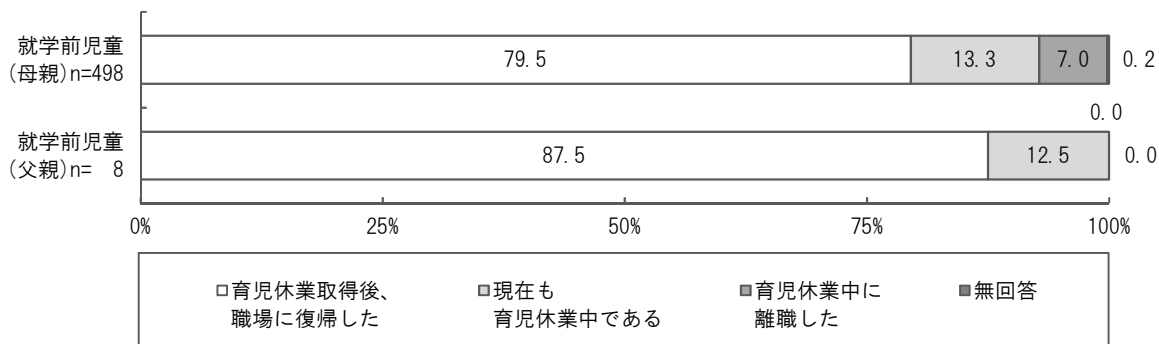
|                                    | H25 調査 |      | H30 調査 |      |
|------------------------------------|--------|------|--------|------|
|                                    | 母親     | 父親   | 母親     | 父親   |
| 取得した（取得中である）と回答した人数                | 313人   | 3人   | 498人   | 8人   |
| 就労者（「働いていなかった」の回答者を除く）における育児休業取得割合 | 61.4%  | 0.4% | 85.3%  | 0.9% |

## (2) 職場復帰の状況

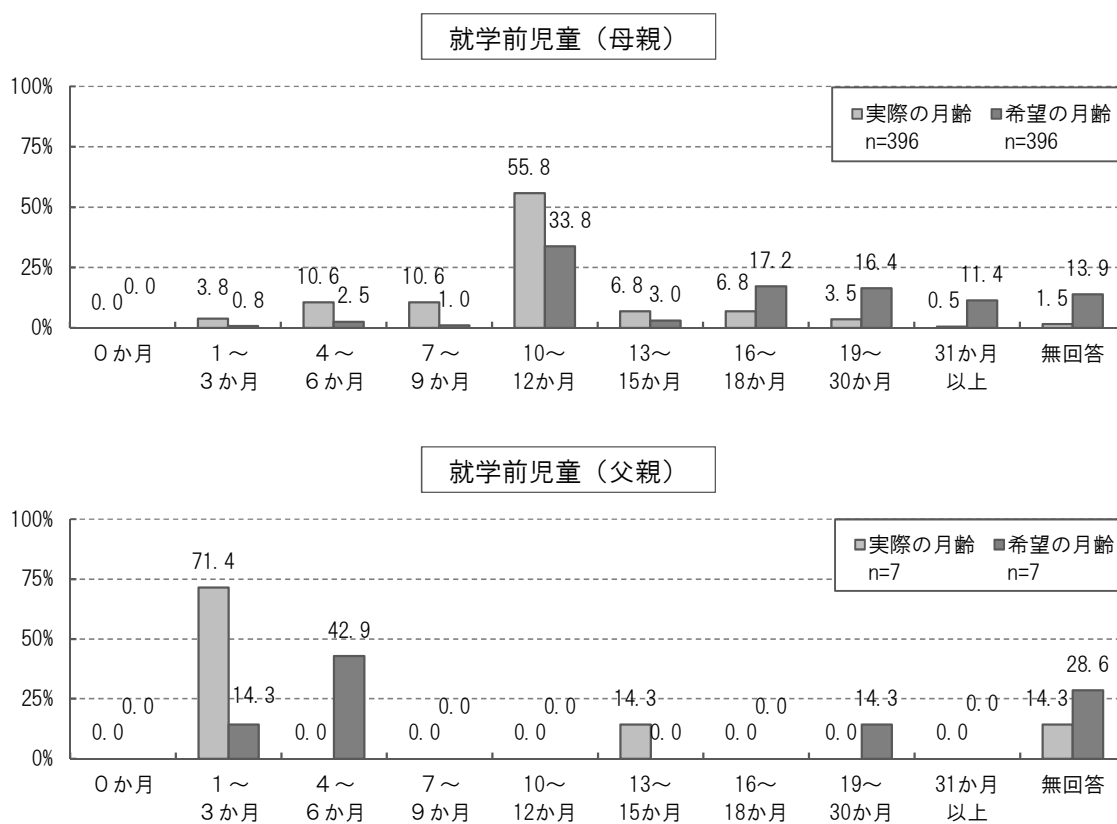
○育児休業取得後に職場復帰した母親は79.5%となっています。父親については、以下のとおりです。

○母親が育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢・希望する月齢は、いずれも「10～12か月」(55.8%・33.8%)が最も高くなっています。父親については、以下のとおりです。

問27-1 育児休業取得後の職場復帰の状況

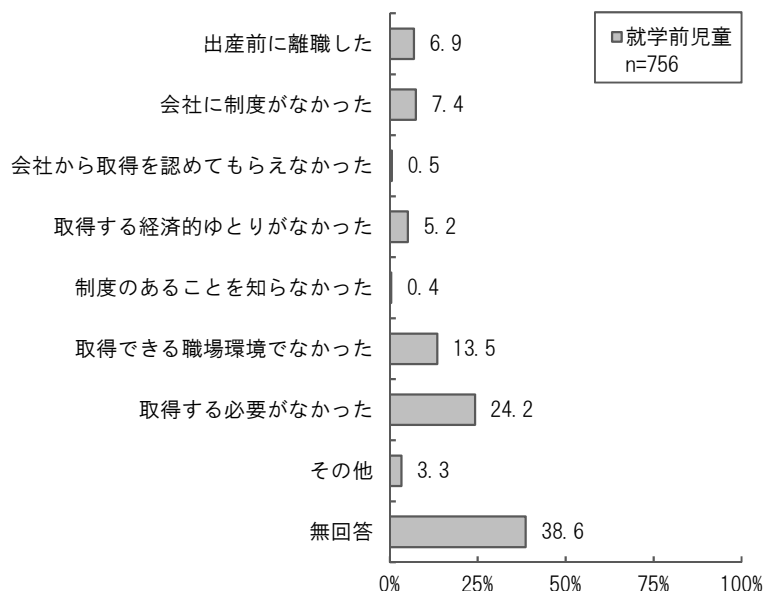


問27-2 育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢



○育児休業を取得しなかった理由をみると、「取得する必要がなかった」（24.2%）が最も高く、次いで「取得できる職場環境でなかった」（13.5%）となっています。

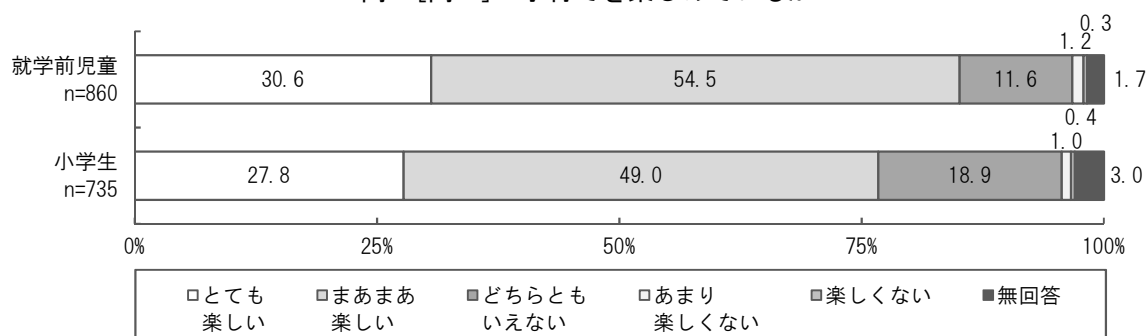
問27-3 育児休業を取得しなかった理由



## 2 子育てに対するイメージや不安・悩み

○子育てを楽しめているかをみると、「とても楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせると就学前児童では85.1%、小学生では76.8%となっています。

問33[問25] 子育てを楽しめているか

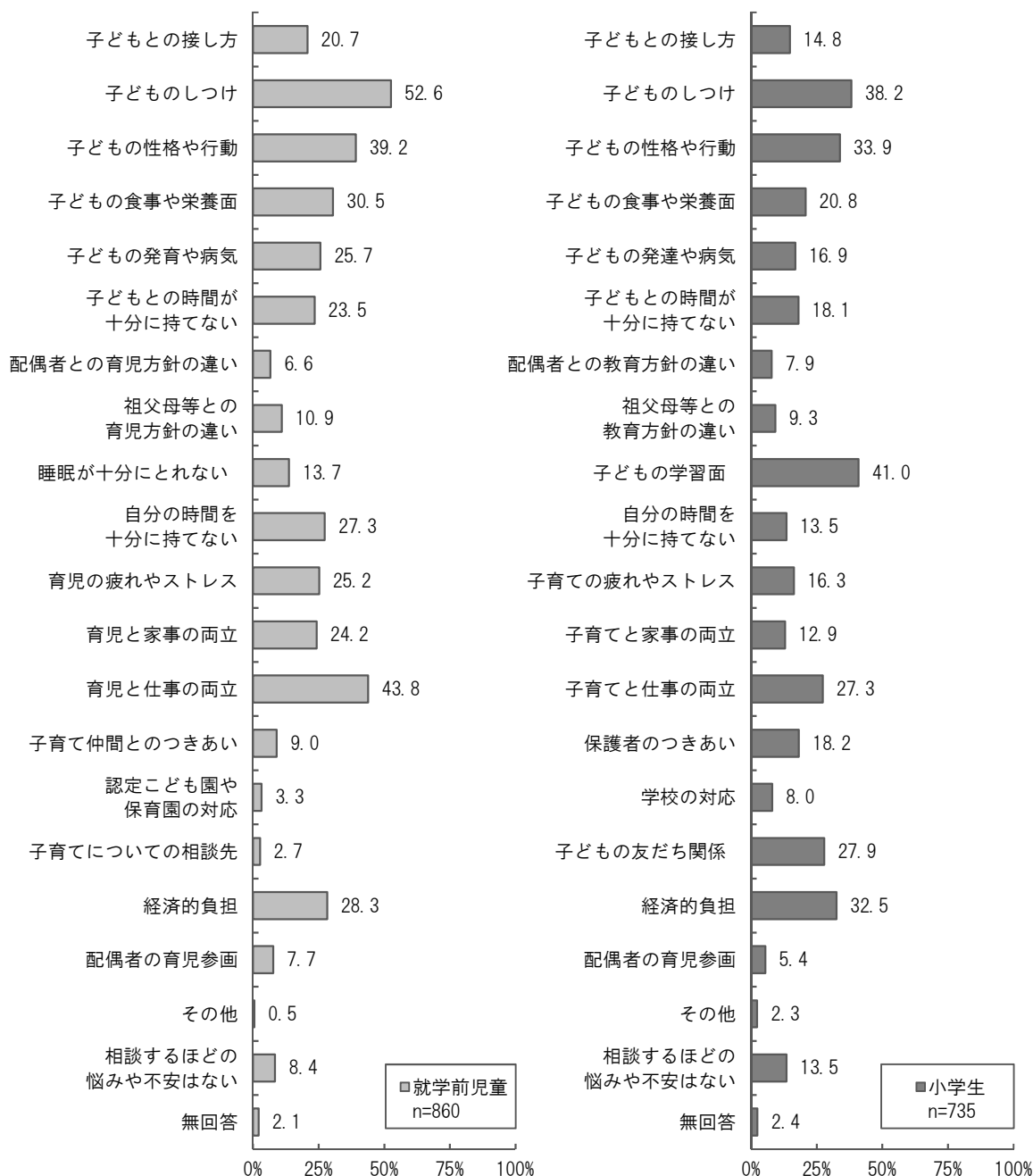




○子育てについての不安や悩みをみると、就学前児童は「子どものしつけ」(52.6%)が最も高く、次いで「育児と仕事の両立」(43.8%)、「子どもの性格や行動」(39.2%)、「子どもの食事や栄養面」(30.5%)となっています。

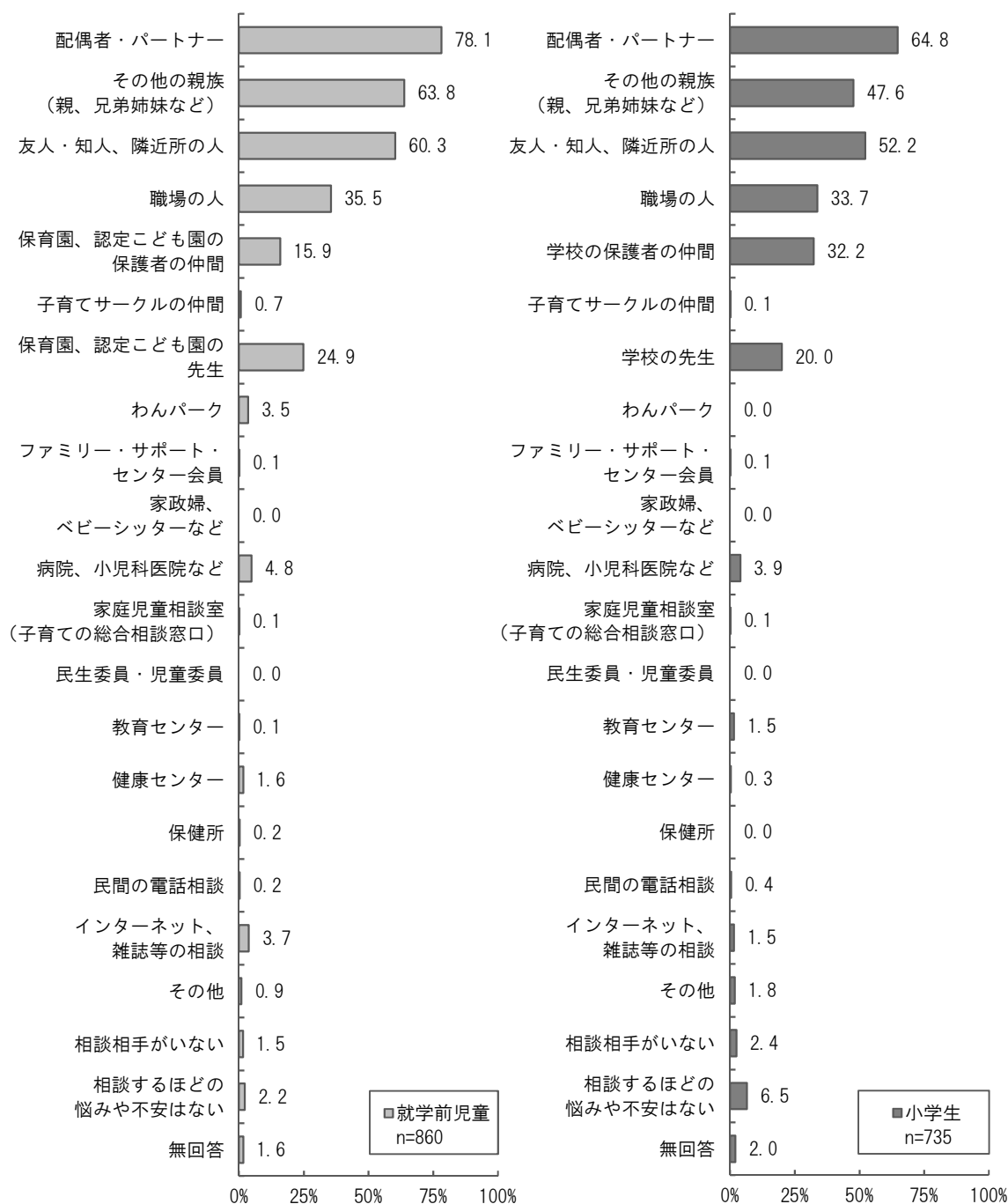
○小学生は「子どもの学習面」(41.0%)が最も高く、次いで「子どものしつけ」(38.2%)、「子どもの性格や行動」(33.9%)、「経済的負担」(32.5%)となっています。

問34[問26] 子育てについての不安や悩み



○子育てについての不安や悩みの相談先をみると、就学前児童・小学生ともに「配偶者・パートナー」(78.1%・64.8%)が最も高く、次いで、就学前児童は「その他の親族(親、兄弟姉妹など)」(63.8%)、「友人・知人、隣近所の人」(60.3%)、小学生は「友人・知人、隣近所の人」(52.2%)、「その他の親族(親、兄弟姉妹など)」(47.6%)となっています。

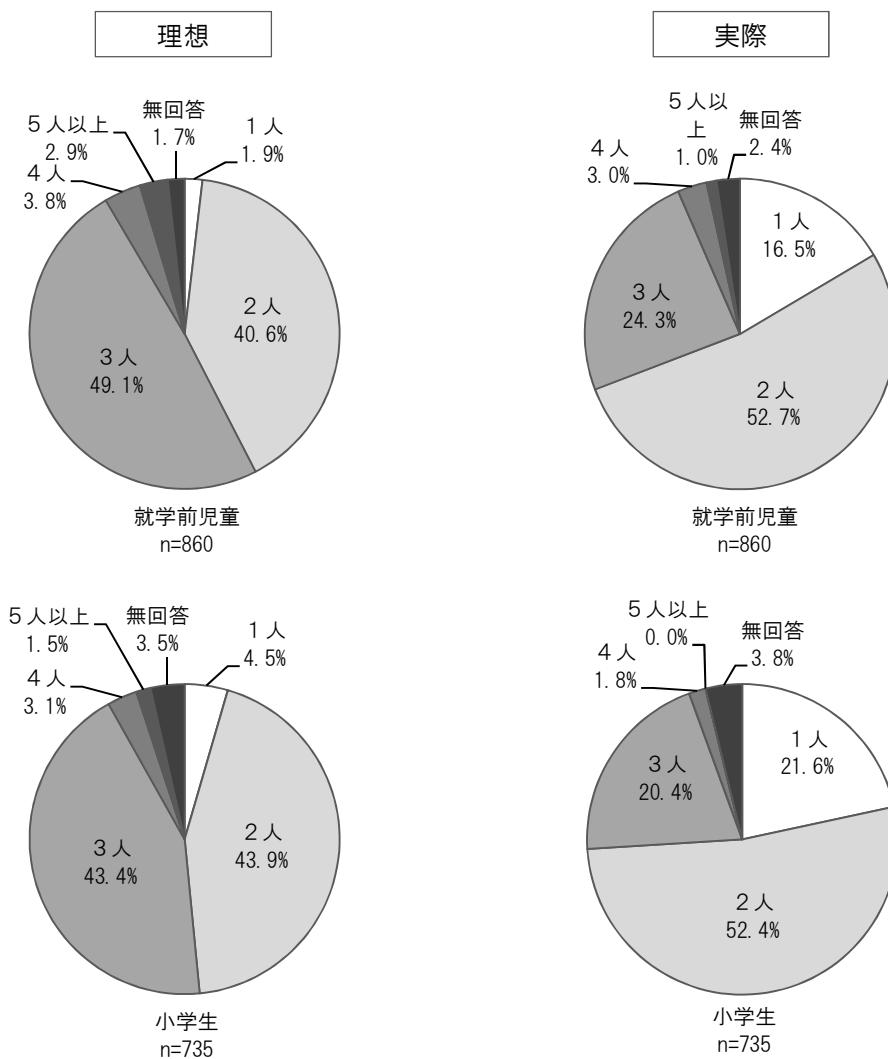
問35[問27] 子育てについての不安や悩みの相談先



○就学前児童の保護者の理想とする子どもの人数は、「3人」(49.1%) が最も高く、次いで「2人」(40.6%) となっています。実際に持つ予定の子どもの人数は、「2人」(52.7%) が最も高く、次いで「3人」(24.3%)、「1人」(16.5%) となっています。

○小学生の保護者の理想とする子どもの人数は、「2人」(43.9%) が最も高く、次いで「3人」(43.4%) となっています。実際に持つ予定の子どもの人数は、「2人」(52.4%) が最も高く、次いで「1人」(21.6%)、「3人」(20.4%) となっています。

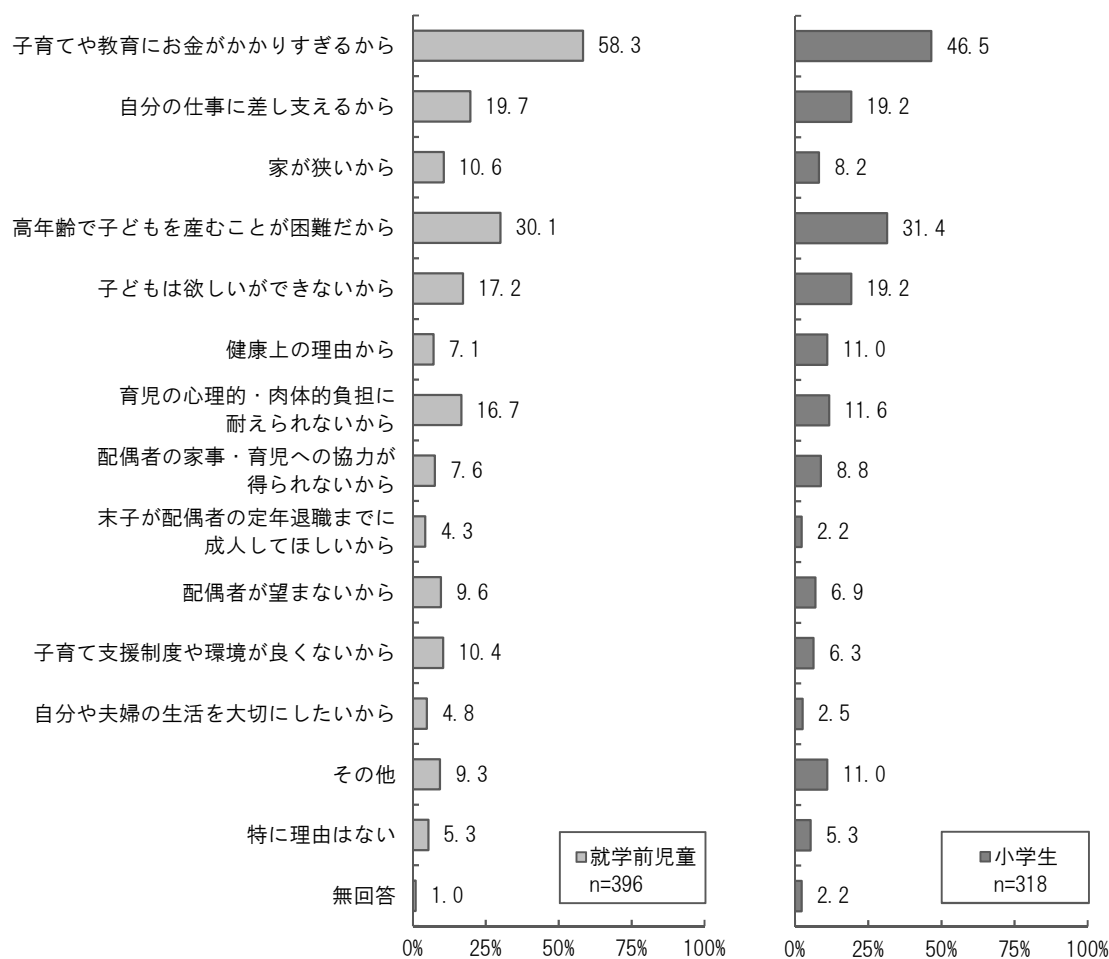
問36[問28] 理想とする子どもの人数と実際に持つ予定の子どもの人数





○理想より実際に持つ予定の子どもの人数が少ない理由をみると、就学前児童・小学生ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(58.3%・46.5%)が最も高く、次いで「高年齢で子どもを産むことが困難だから」(30.1%・31.4%)、「自分の仕事に差し支えるから」(19.7%・19.2%)、さらに小学生では「子どもは欲しいができないから」(19.2%)も同率となっています。

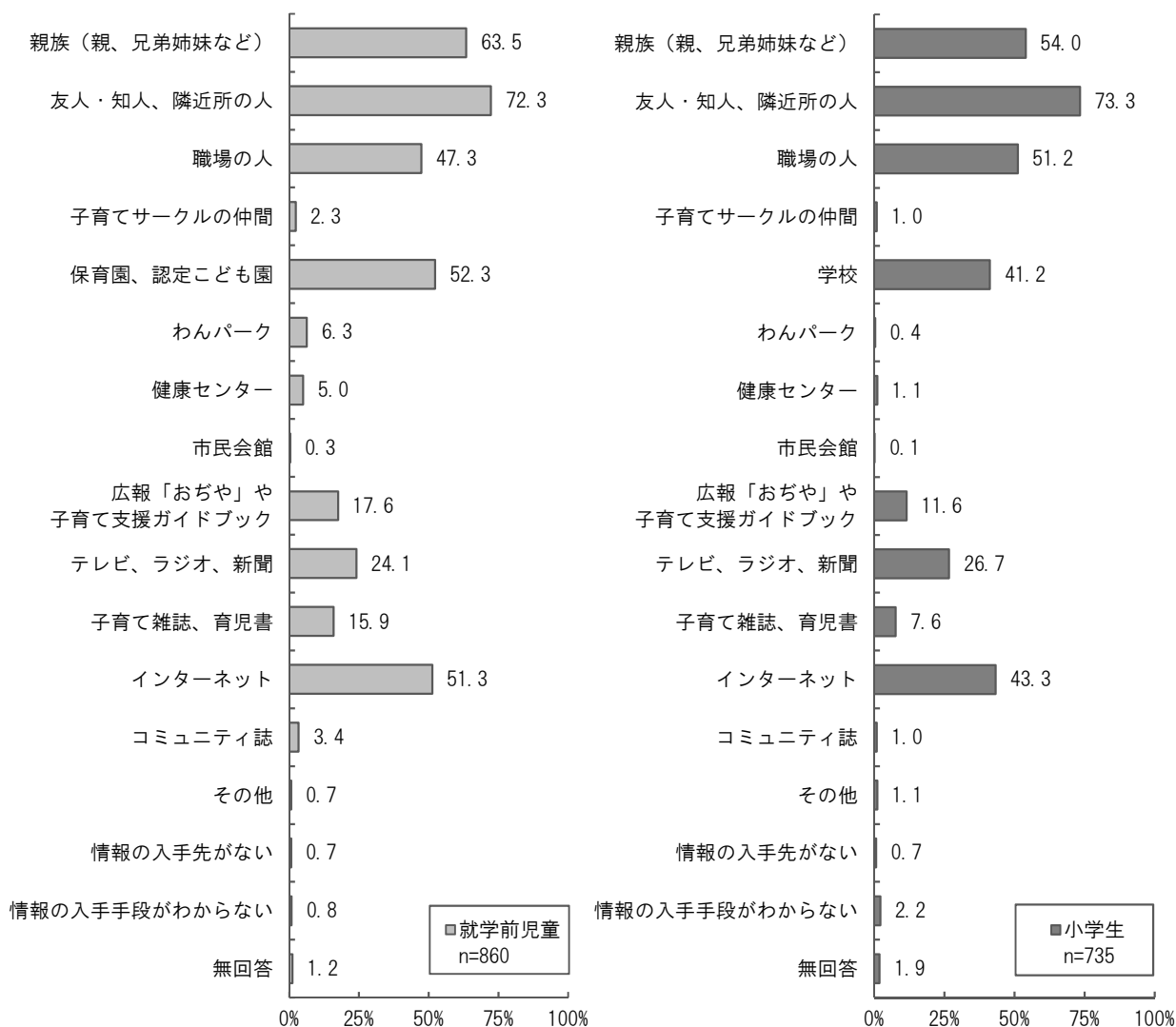
問36-1[問28-1] 理想より実際に持つ予定の子どもの人数が少ない理由



### 3 子育て全般について

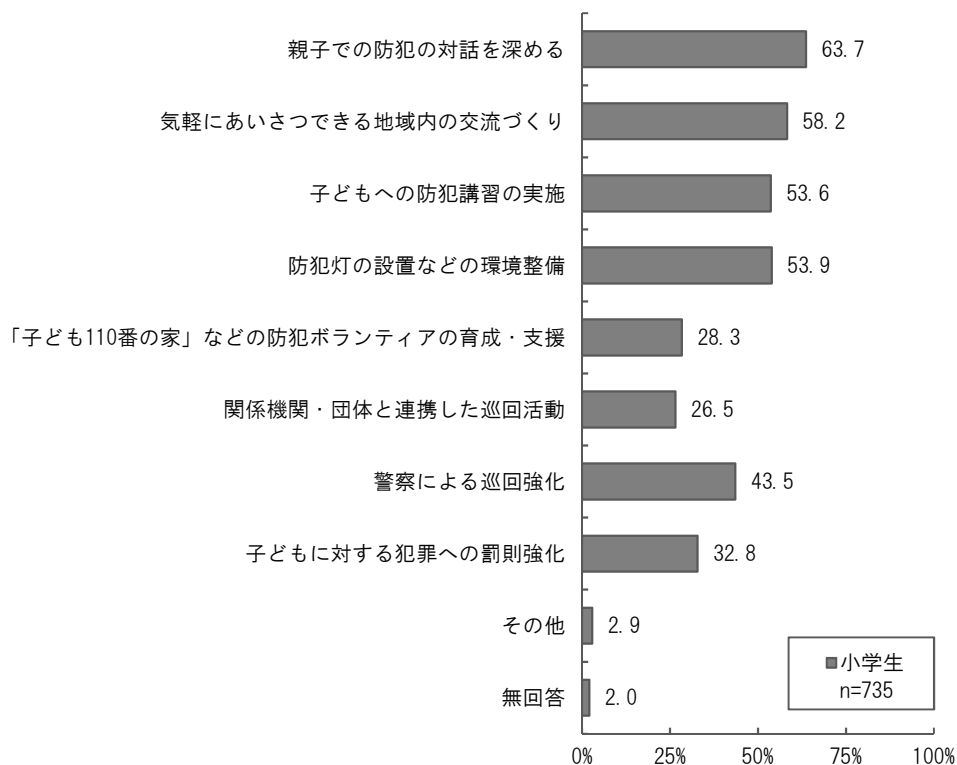
○子育て（教育を含む）に関する情報の入手方法をみると、就学前児童・小学生ともに「友人・知人、隣近所の人」（72.3%・73.3%）が最も高く、次いで「親族（親、兄弟姉妹など）」（63.5%・54.0%）となっています。さらに就学前児童は「保育園、認定こども園」（52.3%）、「インターネット」（51.3%）、小学生は「職場の人」（51.2%）で5割を超えています。

問37[問29] 子育て（教育を含む）に関する情報の入手方法



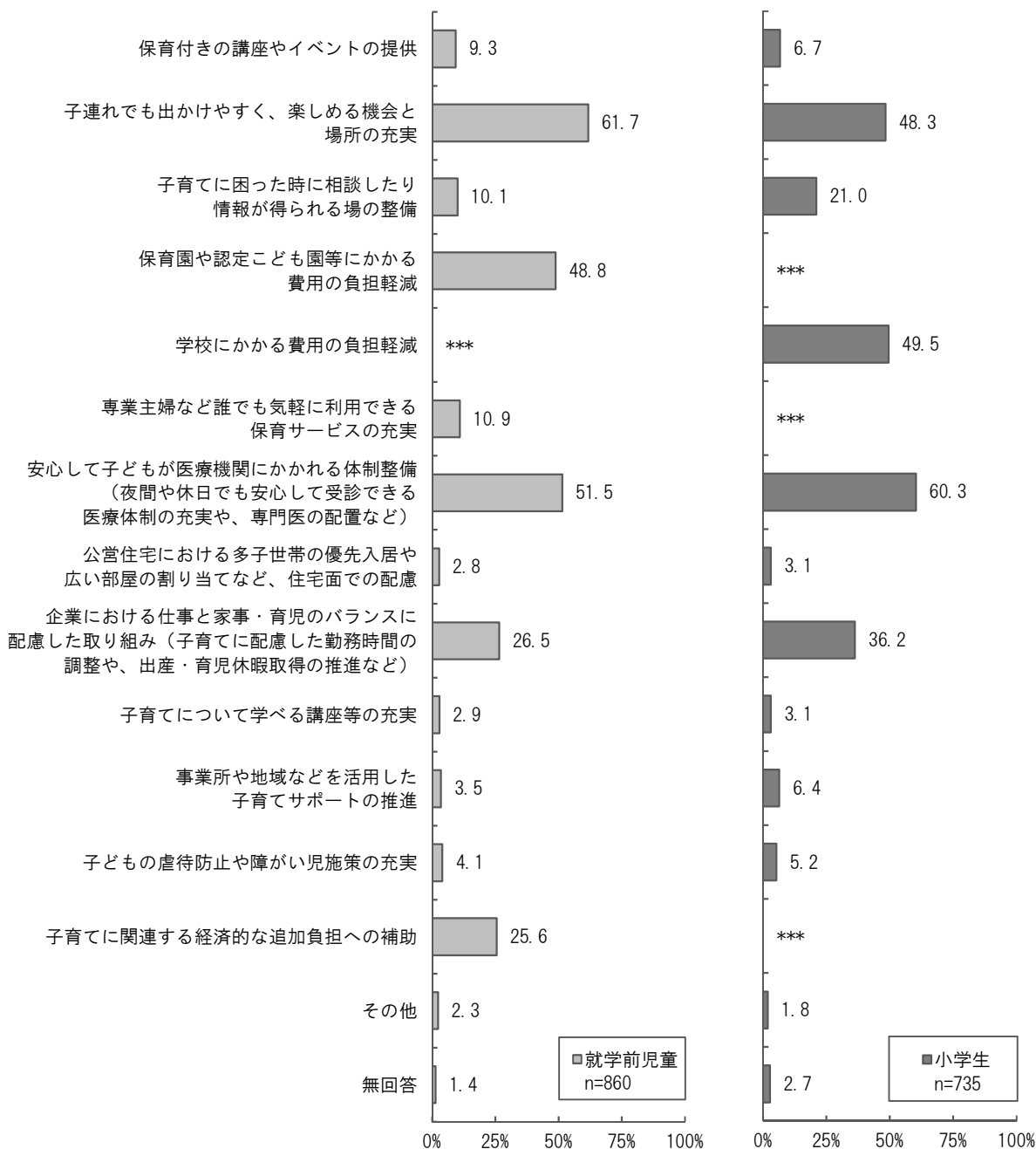
○安全で豊かな地域環境をつくるために、小学生の保護者が必要だと思う対策をみると、「親子での防犯の対話を深める」(63.7%)が最も高く、次いで「気軽にあいさつできる地域内の交流づくり」(58.2%)、「防犯灯の設置などの環境整備」(53.9%)、「子どもへの防犯講習の実施」(53.6%)となっています。

[問30] 安全で豊かな地域環境づくりのために必要な対策



○市や地域による、子育て環境の充実に必要な支援は、就学前児童・小学生ともに「子連れでも出かけやすく、楽しめる機会と場所の充実」(61.7%・48.3%)、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制整備（夜間や休日でも安心して受診できる医療体制の充実や、専門医の配置など）」(51.5%・60.3%)、さらに就学前児童は「保育園や認定こども園等にかかる費用の負担軽減」(48.8%)、小学生は「学校にかかる費用の負担軽減」(49.3%)で割合が高くなっています。

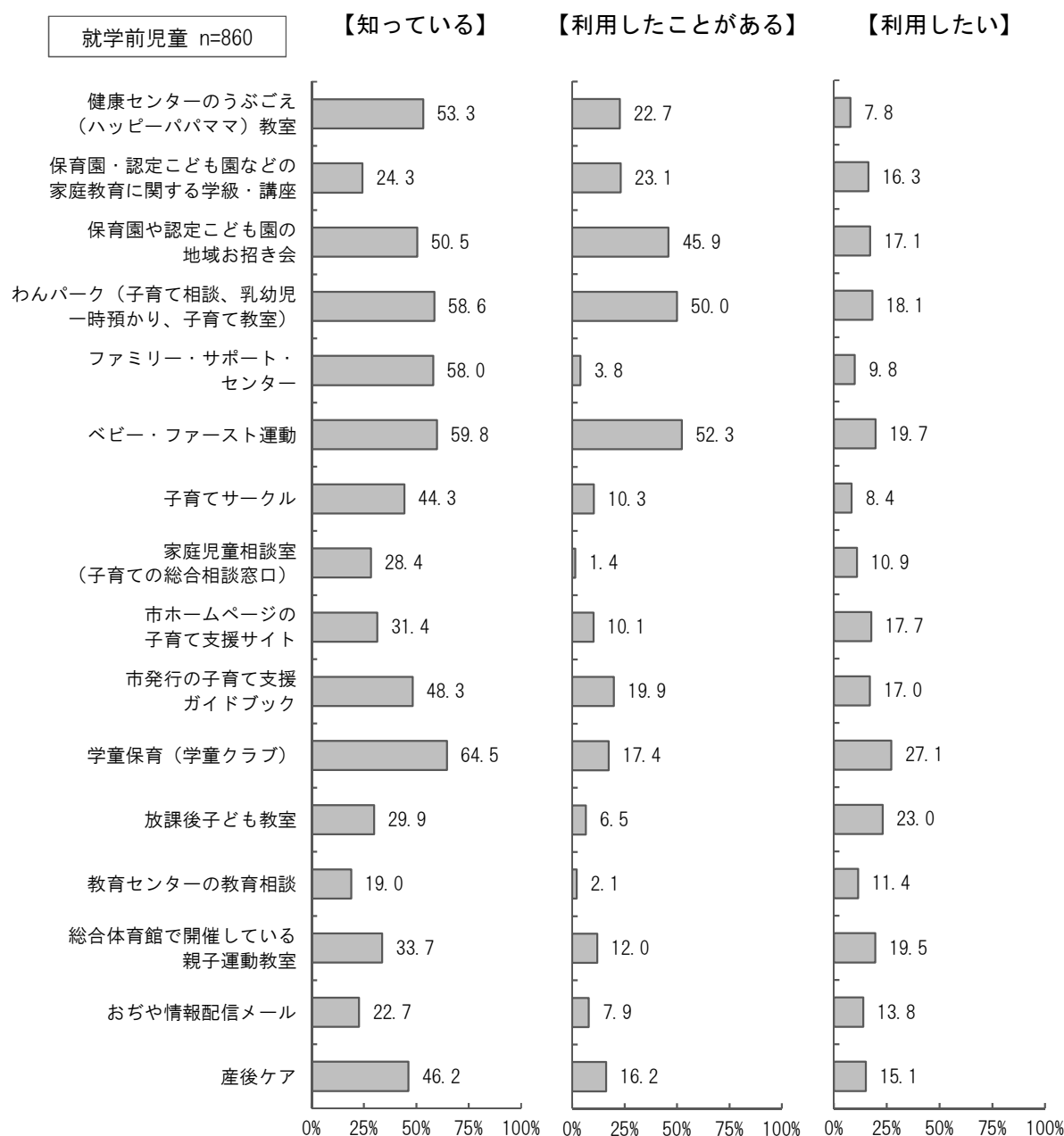
問38[問31] 子育て環境の充実に必要な市や地域による支援



※「保育園や認定こども園等にかかる費用の負担軽減」「専業主婦など誰でも気軽に利用できる保育サービスの充実」「子育てに関連する経済的な追加負担への補助」は就学前児童のみ、「学校にかかる費用の負担軽減」は小学生のみの設問です。（割合は「\*\*\*」で表示しています。）

- 就学前児童の保護者が「知っている」サービスをみると、『学童保育（学童クラブ）』（64.5%）、『ベビー・ファースト運動』（59.8%）、『わんパーク』（58.6%）、『ファミリー・サポート・センター』（58.0%）、『健康センターのうぶごえ教室』（53.3%）、『保育園や認定こども園の地域お招き会』（50.5%）で5割を超えています。
- 「利用したことがある」サービスは、『ベビー・ファースト運動』（52.3%）、『わんパーク』（50.0%）、『保育園や認定こども園の地域お招き会』（45.9%）で5割前後となっています。
- 「利用したい」サービスは、『学童保育（学童クラブ）』（27.1%）、『放課後子ども教室』（23.0%）で2割台となっています。

問39[問32] 小千谷市のサービスの認知度、利用状況、利用希望



- 小学生の保護者が「知っている」サービスをみると、『わんパーク』(55.9%)、『学童保育(学童クラブ)』(53.6%)、『ファミリー・サポート・センター』(52.0%)で5割を超えています。
- 「利用したことがある」サービスは、『わんパーク』が48.3%、『学童保育(学童クラブ)』が39.7%となっています。
- 「利用したい」サービスは、『子ども農村交流プロジェクトモデル事業』が10.3%で最も高くなっています。

【問32】 小千谷市のサービスの認知度、利用状況、利用希望

